

昭和四十二年八月招集

第三回市議会議臨時會會議錄

館山市議会第三回臨時会会議録

昭和四十二年八月招集

一八月三十日(金曜日)

一現在議員三十名でその氏名次のとおり

一番 吉田 勇治郎

二番 石井 輝久

三番 嶋田 石 蔵

四番 伊賀 多朗

五番 藤田 益 治

六番 磯 辺 博

七番 白熊 盛太郎

八番 黒川 正

九番 三 幣 勇

一〇番 西村 真次

一一番 菊井 敏 博

一二番 小柴 孝

一三番 山田 教 宇

一四番 遠山 三不子

一五番 石井 正

一六番 五十嵐 昇

一七番 江田 徳太郎

一八番 安西 益男

一九番 島野 茂樹郎

二〇番 中村 省吾

二番 関 武夫 二番 小澤恵太郎

三番 飯田義男 二四番 田中祿郎

二五番 田村源治郎 二六番 秋山大三郎

二七番 安次徳順 二八番 望月照正

二九番 鈴木市蔵 三〇番 山口 康

一 議事日程

第一議案第六十号 館市富浦町及び三芳村学校給食組合の設

置に関する協議について

第二議案第六十一号 損害賠償の額を定めることについて

第三議案第六十二号 昭和四十三年度館山市一般会計補正予算(第二章)

一、法第百二十一条による出席説明員

市長 本間 譲

助役 畠山 伝

収入役 高木 哲三

秘書課長

小倉澄男

人事課長

小沢正治

庶務課長

山口実

財政課長

長谷川広治

土木課長

飯田治男

教育長

押本禧逸

教育委員会
庶務課長

干場伊左門

同
学校教育課長

遠藤一郎

一、本議会の事務局長 局長補佐 書記及び取員

事務局長

高梨清一

事務局長補佐

高尾豊

書記

兵藤恭一

同

錦織睦子

取員

島田守

一出席議員 二十八名

一欠席議員 二名

午前十時二分開議

議長(吉田勇治郎君)本日より出席議員数 二十六名

二小より第三回市議会臨時会を開会いたします。

本臨時会の議案審査のため地方自治法第百三十一条の規

定による出席要求に対し本間市長 畠山助役 高木

収入役 小倉課長 小沢課長 山口課長 長谷川課長

飯田課長 押本教育長 干場課長 遠藤課長

以上が者が出席する旨の報告がありました。

会議録署名員の決定を行ないます。

本臨時会の会議録署名員に一番議員 菊井敏博君

ニ、番議員 中村省吾君以上両君を指右いたします。
こゝに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。
よつて決定いたしました。

会期を決定を行ないます。

本臨時会、会期につき、議会連立協議会、意見は本
日一日ということであります。

おはかりいたします。

会期を一日と定めますことに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)御異議なしと認めます。よつて会期
は本日一日と決定いたしました。

議案を配付いたさせました。

議案の配付漏れはございませんか。――配付漏れなしと認めます。本日議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

ニハナリ本臨時会が案件につき市長の説明を求めます。
(市長登壇)

市長(本間義君)

ごあいさつ並びに議案の説明を申し上げます。

本日は悪天候の中を急拠臨時市議会をお願いいたしましたところ議員の皆様方には非常に御多忙のところ御出席をたまりまして御審議を願うことに相なつたわけでございます。

かねてより懸案であり過日御協議を願いました給食の完全実施を目標として館山市富浦町及び三芳村など三市町村学校給食組合の設置に関する規約が

協議でありまして関係市町村、小学校及び中学校二十六校を対象に学校給食法の趣旨にのっとり広域行政の推進と教育的効果、また経費負担の合理化をはかるために学校給食センターを設置し、全児童及び生徒の完全給食の実施を期そうとします。

二が組合の設置につきまして法で規定するところにより一部事務組合として規約案の御審議を願ひ、県知事の許可を得て設置しようというものであります。なお給食センター建設につきましては昭和四十四年度に建設の予定であり、完成のあかつきには三市町村約三百学級供給人員一万千人分の完全給食が実施される予定であります。

次に去る六月真倉県道上において公務従事中事故により死亡した傭員に係る損害賠償の額を定めること

に於てでありますが御遺族との示談も成立いたしまし
 まいたので市といたしましては四百三十三万七千三百二十六
 円を支払うことを決定し故人の御冥福と御遺族の
 精神的な償いを考えまして法の規定するところにより
 額を定めることについて議会と同意をお願いするわけであ
 ります。こゝに伴いまして一般会計補正予算第二号
 で四百三十三万八千円の補正をお願いしてありますが、前
 述の議案に関連したものであります。以上付議事件
 につきましては提案理由を御説明申し上げましたか
 いづれの議案も急施を要するものであり関係主管課
 長を出席させてありますので慎重な御審議を願
 い議会と賛同をお願いする次第であります。

議長(吉田勇治郎君) 日程第一 議案第六十一号を議題とい
 たします。

(書記朗読)

議案第六十号 館山市富浦町及び三芳村学校給食組合の設

置に関する協議について

議長(吉田勇治郎君) 本案についての説明を求めます。

教育委員会庶務課長(千場伊右エ門君) 議案第六十号の館山市富浦町及び三芳村学校給食組合の設置に関する協議でございますが、ただいま市長の方から提案、説明がございまして、そのうちの規約について御説明申し上げます。

この学校給食組合の一部事務組合でございしますが、これは地方自治法第二百八十四条の第一項に一部事務を処理するために協議により規約を定めて都道府県知事の許可を得て地方公共団体や組合を設けることができる。これに基づいてこの組合規約をお願いする次第

第でございす。が、その地方自治法の中に二百八十七条に「一部事務組合の規約には、左に掲げる事項につき規定を設けなければならぬ」とあります。そらうて、一号で組合の名称、二号で組合を組織する地方公共団体、三号で共同処理する事務、四号で組合の事務所の位置、五号で組合の議会、組織及び議員の選挙の方法、六号で組合の執行機関の組織及び選任方法、七号で組合の経費の支弁の方法とこれだけを組合規約の中に掲げなければいけないということでございます。それに基づいて、まず第一条で組合の名称をここに上げたわけでございますが、この組合は「館山市富浦町及び三芳村学校給食組合」というふうにここに上げたわけでございます。

第二条で組合を組織する地方公共団体、これは館山市

と富浦町と三芳村であるというところでございます。

第三条で組合の共同処理する事務。こゝは学校給食センターを設置してその維持管理並びに運営。こゝに付帯する事務を処理するというところでございます。

組合の事務所。こゝは第四条で館山市役所内に設けるというところでございます。

組合議会組織。第五条で組合に組合議会を置くということとなりますので、その組合議会議員の定数は十五人で館山市が八人、富浦町四人、三芳村三人とするというところでございます。その議員の選挙は第六条条によりましてこゝは関係市町村。当該議員の中からそれぞれ選挙するというところでございます。

議員の任期はこの第七条でその属する市町村の議会の議員の任期によるものとございます。

そうして議員中欠員を生じたときは、その議会において補欠議員の選挙を行なう。補欠議員の任期は前任者の残任期間とするということです。こゝでございす。

第八条では組合議会に議長、副議長を置く。

第九条、こゝは執行機関を設け、まして組合に管理者と助役、収入役を置く。そうして管理者は、館山市長の職にある者がこゝにあたるということ、こゝでございまして、助役と収入役は、管理者が組合議会より同意を得て選ぶ、こゝでございす。

それから第十条、教育委員会、こゝは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、第二条に「都道府県、市町村及び第二十三条に規定する事務の全部、または一部を共同処理する市町村、組合に教育委員会を置く」と定められております。こゝで第二十三条という

のは教育委員会が処理する事項が設けられておるのでございしますが、その十一号に「学校給食に関する」とありましてこの学校給食関係は教育委員会が処理するのだということでございますで、この教育委員会をやはり設けるわけでございます、そしてその教育委員会、定数は五人としまして館山市が三人、富浦町一人、三芳村一人をもちてこれに充てるということでございします。

十一条は監査委員、これは組合に監査委員三人を置くというところでございまして、その委員は管理者が組合議会、う同意を得て、関係市町村の監査委員の中からそれぞれ一名を選任するものとございします。その任期は当該市町村の監査委員の任期によるものとありまして、欠員の生じた委員の選任方法、残任期間、そういうものは議会、議員関係と同一でございします。

それから、その他職員としまして十二条で組合に事務職員、技術職員、その他所要職員を置く。これは組合のいろいろな事務を担当するものでございまして調理人とか栄養士だとか、そういうものもこの中に入ります。

十三条で組合の経費をうたっております。これは各関係市町村が負担する。分担金、その他収入をもつて支弁する。分担金の負担割合は毎年五月一日現在における統計がございすから、そのとき在学児童、生徒数の割合とするものでございす。

附則でこの規約は知事、許可があった日から施行するということもございす。よろしく御審議のほどを

願います。

議長（吉田勇治郎君）本案に関する説明を終りましたが、

ただいま議題となりました議案第六十一号に関しましては、
議会がこれを審議を行ないますには、「地方教育行政の組織
及び運営に関する法律」第六十条第二項の規定により
当市教育委員会、意見を求めなければならぬことになり
おりますので、議長より委員会に対し、意見を求めました
ところ、お手もとに配付し通り、異議のない旨答申がありま
した。御参考になさるようお願いいたします。
本家に対する質疑を求めます。

○九番(島野茂樹郎君)三糸に関連をいたしまして簡
単にお尋ねします。

大体給食の一食はいかほど位を今うところ予定されてい
るかということか一つ。

それから対象が三市町村にまたがるわけなんです。お
そらく全生徒ということに予定されているだろうと思いま

すが、その中で家庭によつては、或いは生徒によつては、
 給食^を受けたくないというやうな希望を持つてゐる家庭
 生徒、そういうものがないとは限らないわけですよ。その辺は
 要するに希望者だけを対象にするのか、或いは強制
 という言葉が悪いかもしれませんが、全員を対象に
 てるのか。その二つについてお答えいただきたいと思ひます。
 教育長(押本禧逸君)お答え申上げます。一食は、今た
 だちにここにきめるわけにいきませんが、申上げるわけ
 にいきませんが、大体のところでは、四十五月から五十円位
 平均五十円位というところを考へております。

それから給食を希望しない者があつた場合には、どうす
 るかということですが、二かについては、完全給食
 という形で教育の一環としてゐるものでございまして、
 すべての子供に父兄を痛^くど、或いは子供を痛^くどして義

義務教育の子供に全部、完全給食をさせていきたい。
こういう気持ちを強く持つわけでございます。

・九番(島野茂樹郎君) 最初の大体四十五月から五十月
の見込みということは一了承いたいたいと思ひます。

あとの問題なんです。が、義務教育の児童には教育の
一環であるから全員をとというお話ですけれども方針と
して私はそれをいけないうつもりはございません。

ただ家庭の事情によつては、この負担に耐えられないとい
うようなまた自分の家で弁当を持たせてゐた方が負担
が軽いというような家庭によつて給食を希望しないとい
う家庭もあると思ひますが、その辺り扱いをやはり
慎重にやうにいたたくことを希望したいと思います。まあ
この方針、そのもつたつて私はどうこういうつもりはご
ざいせん。その扱いを慎重にやうにいたたくことを希

望いたまいます。

・六番(五十嵐昇君) 今島野議員から全員を対象にするかという質問ですが、市の方では大体そういうことですが、保護者家庭等がございしますが、それに対する御考慮、御配慮等がございしたら御説明いただきたいと思います。

・教育長(押本禧悦君) お答えいたします。保護者家庭並に準保護家庭には国から補助がございします。そういうことで配当処理できるかと思ひます。金額補助。

・六番(五十嵐昇君) それから前回の協議会々ときには大体パンを主本体とするというふうなことをお聞きしたまいます。米飯等につきまては、何う考えもなく、またパンのカロリーと米を一合たりハウたりを供与する場合、どういふカロリー差があるか、そういう

点の御研究が、あはば御説明いたしたい。

・教育長(押本禧逸君) 米飯とパンというところでございしますが、米飯の方については考えておりません。パン食一本を一応考えておるわけでございます。こは大体県下でもほとんどが学校がそういうことでやっております。

それからカロリー等については、こは小学校と中学校では多少内容が違ふかと思いますが、パンを主にして米飯の方は今うところ考えておりません。

・六番(五十嵐昇君) 全国を見ましても米飯をやっているところはないか。大体全部がパン食かということではございしますが、御調査いたしておりますか。

・教育長(押本禧逸君) 私承知している範囲では全部パンが、ように承知しております。

・四番(伊賀多朗君) 給食の内容でございしますが、全部一率でござ

いまはどうか。

・教育長(押本禧逸君)全部一応一率でございす。ただ
中学校と小学校では多クパンの大きさとかおかずの方
も多ク量が違つてゐると思ひます。

・四番(伊賀多朗君)今まで給食をやつてゐるところがございすね
そういうところの成績が問題だと思ひますが農村とか
漁村とか館山市街地とか特別の考慮ということは
必要ないんですか。一般の家庭の食事というところまで立ち
入ることになります。でもむづかしいと思ひますが、こっちの方
はこういうものを余分に取り過ぎてゐるとか。そういうこと
の考慮は検討されておりましたか。

・教育長(押本禧逸君)現在市で行なつておられますのは小学
校四校だけでございまして、そこでも栄養士を中心に
或いは運営委員会でお医者さんや、保健所の方々、

いた方々においてカロリーその他内容等につきましても御検討いただきながら献立その他を定めるわけでございます。今後もしそういう形をもっと進んでいきたい。三つ考えておきます。

。四番伊賀多朗君）今大体生活状態というものは同トになつてきて昔々貧乏人は米を食えといったという話がございしますが、そういう生活状態はなくなつて、いわゆる俗にいうお金持も普通、人も困る人も均等になつてきたと思ひますが、農村・漁村というこの邊いが給食は三食のうち一食だけですけれども、そういう配慮があつてもいいのではなうか。漁村の方には、こういうものを持つていきたい。農村の方には、こういうものを持つていきたい。技術的にむづかくなりそうですけれども、こういうことをお伺ひしたわけでございますが、そういうことも一言。

・教育長(押本禧逸君)　そういうようなことまで配慮すればいいかと思いますが、一応調理上等の關係ではそのセンター等を見ましても大体一回りおかすは全部同トもを、日にまてはかわておりますすが、

・四番(伊賀多朗君)　ただいまの話をわかりました。それからもう一つ、今まで給食をやっているところがございますが、給食をやるところから体位や向上とか一つけ、生活環境、そういったことに及ぼす影響が相当出ているのか、そういうことを簡単に結構ですが、お伺いしたいと思います。

・教育長(押本禧逸君)　短かい期間では、そうはっきりしませんけれども、よその県の報告等を見ますと、長く続けてやっているところではやはり体位・体格というふうな面では非常にはっきり出てきつつある統計を見るのがございます。

・四番(伊賀多朗君) 当市の場合、データはございまいようか。

四校をておるわけではございまずね。

そのデータがございまいたら教えていただきたいと思ひます。

・学校教育課長(遠藤一郎君) 給食との関係、データはござい
ませんけれども、当市、身長とか、体重とか、胸囲、果
の平均と比較して見ますと、かつては、果平均を相当上
回わつたわけではございしますが、現在四十三年度の統計
を見ますと、大体、小学校で五乃至六校は、身長、体重、胸囲
とも、果平均を下回つておるといふ結果が出ております。
ただ、給食をふたつたことがどうこうという、結果はわかりませ
んが、下回つておる結果ははっきりしております。

・四番(伊賀多朗君) 了解いたしました。

・三番(嶋田石蔵君) 給食費が一食五十円前後というふうなこ
とを承りました。その五十円前後の給食費は、そのお

金で全部がまかなわれておるか。その上にプラス補助というものがあろう。実際に子供が一食いただくのは、七十月ぶりか八十月ぶりということはないのかどうか。ちよっと伺います。

・教育長(押本禧逸君) 私が今承知している限りでは、給食費をもつて全部充てるということで、給食の食物についてプラスどこからかというものはないと聞いております。承知しております。

・ニニ番(小沢恵太郎君) 本案につきましては全面的に賛成するものではございますが、これは関連的なことで、将来の運営の問題になるわけでございますが、それについて伺います。また希望も述べたいと思います。

広域行政、話が協議会々ときもございまして、たが、ここに一部事務組合を設置するということは、三市町村

にまたがってゐるから、こういうわずらわしい処置を取らなければならぬ。三というふうに考えるが、いゝが、こゝれが一つと合併というふうなあかつきには、こういう組織規約はいらなくなるだろうと想像しますが、それについて御意見を伺いたい。こゝが一つ。

それからこの運営に当りまして、先々まで御質問でございすが、私はどこまでも給食費というものが父兄負担である。父兄の教育に対する経費というものが、暫時増嵩して参りまして、家庭に於ては相当支拂う大きな額を占めてゐるといふような点から、なるべく安く、そして立派なカロリーがある給食を実施するにあつては、いゝていただきたいと希望するものであります。

そういうたてまえから、こゝ前協議会々々ときには、ペン加工業者にまた牛乳も買ひ求めるといふような考え、

方針のようでございますが、こゝだけの施設を以て、一食
 の給食をするならば、私としてはパンも牛乳も給食セタ
 ー内において、こゝを加工することによる、相当の経費が
 こゝに生まれないだろうか、もちろん施設費におきまゝて
 は、現在より予定よりも多額の金を要すると思ひます
 が、こゝを長く続けるものとしますときには、パンの加工と牛
 乳の加工を同時にこゝで行ないますることによつて、適
 当に適切なパンも焼ける、また牛乳も生乳の牛乳
 が安く供給できるのではないか、こういうことも考えるので
 ございます。こゝは施設を以て、まあ、たゞあつては、どうにも
 ならないことで、施設の計画に當りまゝて、そういう点も十分
 配慮してやつて、いただきたい。

こゝについて当局において、研究さしたか、先ほだから教育長
 の答弁を聞いておりますと、まあ、でも、こゝだから、こゝだから

というお答えが多々あったように記憶いたしますが、これだけの施設を以てこれだけの大きな仕事をするならば、よそのまねをする必要はないと考えます。

館山市に適用たよりよいところのものを求めて計画していただきたい。三つ希望を持っておるものでござい
ます。以上二点でございます。

市長（本間譲君）二二番議員さんの御質問は非常にこもつともと思います。

現在、給食組合を仲間である町村以外るところも今後合併ができた場合には、まあそこが給食がない場合、やることと合併の趣旨ですが、そういかない場合、すぐにはできないと思います。速やかに入るようにすることがいいと思います。それからパンと牛乳の件でございますが、パンのことにつきましても、研究がまだござい

ません。牛乳はここが生産地ですから、これにつきましては、是非安い牛乳を組合かなんかの方で合理的にやっていただければ、それをお願いすることに私は考えていきたいと思ひます。以上です。

ニ番(小沢恵太郎君)市長さん御説明で大体わかったんですが、私が一部事務組合、これを設置しなければならぬのは三市町村にまたがっておるから、もしこの三市町村が、仮りに合併したあかつきには、これはもう独立した一部事務組合でなく、教育委員会の中、事業というもので、すぐ切りかえられるかどうか、それをお伺いたわけですが、それともう一つは、牛乳は生産地である。パンも加工業者等の学校給食組合なるものもできておいて、いろいろ関連もあると思ひますが、速やかにこの点は研究していただいてできるだけ父兄の負担を軽減さる

ように努力さしていただきたい。この願うものであります。

市長(本間譲君) 今の三芳、富浦が合併した場合に、これは自然に解消という助役の意見を聞いて申し上げるんですが、そういうことらしいです。

二五番(田村源治郎君) 現在給食をやっている学校に対して食器その他衛生的な面から全面的に新しいものに取替へるか、また学校給食に対して学校食堂、講堂的なもの、を設けるか、それから今カロリーが問題になつておるけれども、カロリーとは現実に館山近辺の気候、風土的なものを加味したものを含んでいるか、一定のカロリーでいっているか、それからもう一点はパン食というのを限定させて付属のものをつけて食べさせるというけれども、強制的なものがあるかないか、食べたくなければ食べないで放任するのかが、子供が体質上、食べたくないと

きう一食はどうするの。食べても食べなくても大体四十円なり五十円払い込むのか。それとも前もろく届けたものは余っても五十円もウラのか。そういう処置がどうに考えておるか。その四点をお願いいたします。

・学校教育課長(遠藤一郎君) 最初の御質問ですが、現在四校で使っておるものについては一応今度センターの設置によって新しく取りかえる予定でございします。

それから食堂等というお話がありましたが、これは全部各教室でもって先生の指導によって食事をとっていただく予定です。

カロリー計算につきましても、風土的なものを加味させていただきますけれども、一般的にカロリー計算は二千七百なら二千七百カロリー。献立を調理して子供に与える。そういう方法になるかと思ひます。なお、すききらい等です。

食べないということがございましてたけいども、あくまでも教育の一環でございまして、無理やりに強制的とは申しませんけれども、全部食べるように指導したいと思ひます。ただ、病氣等によつてどうしても食べられない場合には、いたゞ方ございせんけれども、そういう場合についての給食費は徴収はいたさない方針でございします。以上です。

ニ五番(田村源治郎君)食堂は設けない。学校の先生が指導にはよるといひますけれども、現在伝染病あたりが学校にはあつておる。こゝは目に見えない。目に見えれば先生が指導によつてよゝると思ひ、もし赤痢患者が発見されない場合には全部かかる。或いは一部づつづつがかかる。学校の教室でそのまま手を洗つて食べさせる。

こゝは果たして衛生的か現在四校であつておるものは衛生的にあつておるか。一ようがないからがまんしてあつてお

る。あの様な方式でいいのか。布もーかないでゐておる。
手を洗つてただ食べる。あは衛生的であるかないか。
それからカロリー。二千七百といったけれども、カロリーばかり設
けても嗜好物がないものではカロリーが取るか。献立
を毎日かえていくのか。ただ一定のもので二千七百カロリー
取っていくのか。文部省できめた二千七百カロリーを基本
にするのか。気候、風土、そういう観点を十分含まないと
児童の体質はなくならない。それらの点をもういっぺん
お伺いしたいと思います。

。学校教育課長(遠藤一郎君) 最初う食堂の件でござい
ますけれども、講堂でというお話があつたけれども、学校
では一年生から六年生、中学校では一年生から三年生
まで、びたり終るといふことがなかなかできませんで、一斉
に講堂にというと、時間的に差があらう、待っている子供

とか或いは第四時間目に体操等がある。なかなか着
がえ等で時間がかかる。そういうことで講堂で一率
にということはできません。どうしても教室でやらざ
るを得ません。

御指摘のように衛生面につきましても十分手洗とか
うがいとかを監督指導して非衛生にならないように
やりたいと思います。

カロリー計算でございしますが、嗜好の点はこれは小学
校から中学校まで一括してあります。で、全部生徒
に嗜好が適するようにはいかないと思います。私もは
あくまでも子供が健康と体位体力が上ることを献立
の主たる目標にして調理を行なっていく予定ですので
嗜好あるいは風土的なものが若干抹殺されるかもしれ
ませんが、要は健康と体力にプラスになるような給食活動

にすることが考えられますので、その線にそって進めていきたいと考えます。以上です。

二五番(田村源治郎君) 子供たちが、きょうの給食に対して、その当番が腹くだしをいっているのではないかと、あるいは赤痢とか伝染病を持っているのではないかと、常に健康な子供が当番になっているならば、ある程度わかるかもしれないが、先生の指導といっても病気になる子供を当番にさして、あとでわかれば大きな問題が惹き起される。先生の指導にまかせてあるというけれども、先生でも人間だ。考えつかない部分もある。健康なものに弁当を作ってもらってできるだけ衛生的に配布してもらうことが安全なやり方だ。

それらの注意はどこまで考えているか。もう一回答弁いただきたい。

それからカロリー一定の献立というものを考えていますというけれども、仮りに二千七百カロリーにしらえるならば、にんじん、ごぼう、肉類をどういうふうにまぜるか、発表してもらいたい。その二千七百カロリーは、どういうふうになるか、御説明いたしたい。

・学校教育課長(遠藤一郎君)健康の問題ですが、各学校では、毎朝義務的に子供が健康観察というのをとっておりますので、この子供がおかしいかどうか、朝の時点においてわかりますので、おかしいという場合には、養護教諭等を通じて見ていただきますので、そういう面では、健康観察が朝のうちに行なわれますので、健康な者が当番でもって給食の仕事に従うことができると思っています。なお、カロリー計算の何が幾らという計算につきまゝては、まだ、そこまで検討してありません。

・二五番(田村源治郎君) 給食をやるカロリー計算ができません。どうですか。私たちでも、ほぼ見当がつく。それを知らないでカロリーを問題にしてうさぎに食べさせるのではあるまい。これぐらいのもうが、できるといふことがわからないで、どうするか。このことをよく考えていた。だいたい、これで終ります。

・一三番(山田教子君) ただいまカロリーの話が出ましたので、要望と質疑を一緒にしてお願いたいと思います。カロリーの問題ですが、課長さんも誤解されておられると思います。

一日体重一キログラムに対して五十カロリー、これが一日の量でございます。一食のカロリーというのとちょっと少ない。

二千七百というカロリーなんか出て参りません。

ですからあなたのおっしゃったのをつかまえて質問されて

おるわけですよ。

そういうカロリーの問題は専門家がやる（き）ことですから、これはおまかせ願ってゐていただきたいと思います。

私がお聞きしたいのは、農村地帯が半分以上あるわけですから、従いまゝ牛乳と米というのは、産地でござい
ます。従つて自分の持つてゐる米と牛乳を自分がすぐ
そゝまゝ飲めるわけではございませう。それを学校でも
つて高い金で飲まさるゝというところに問題がある。

私はある団体におまゝてそゝときに話したんですが、給食
というものは金ではない。それ以上の効果があるのだ。

それだけのプラスがあるから、あなた方は協力しなければな
らないというのを説明したことがあります。そういう地帯
を半分ひかえておきます。当然給食というものは、どうい
う意味を持つてゐる。我々は、こういう運営をしていくという

ことをはっきり打ち出して父兄の納得のいくように持つていかねければならぬ。ですから今後もしっかり統計を出されて、そういう点を考慮して運営に当たっていただきたい。

なお、質問いたしたいうのは幼稚園、那古幼稚園も給食もやっておりますが、これに対してあとどうしますか、あそこが場所を使ってやらせるのか、どうかということをつ。

・教育長(押本禧逸君)幼稚園の問題につきまゝでは、まだよく最終的な線が出ていない現在でございます。早速検討したいと思ひます。

・三番(山田教字君)幼稚園は今まで給食をやってゐるわけですが、那古もやってゐるはずだと思ひます。

館山もおそらくそうでしょう。やってないですか。幼稚園で今までやっているところも切るわけですから、幼稚園は今度独立

してやっていくことになりそうですから、それをよく考えて対策をこかに並行して考えていただきたい。手落ちのないようにお願いしたいと思います。が、ああいう施設を使うという事になりまうと幼稚園だけ、非常にむだになりますから、その点を考慮に入れて有意義に使うように考えていただきたい。以上です。

。二番(石井輝久君) ちうと御質問いたします。

給食の対象になるのは小中学生だそうですが、小学校の一年生というのと大七ヤ、それからもとも年令の高い中学生、三年生という事になりますと、十七、八ヤかと思ひます。

文部省の統計或いは厚生省、その他、統計でおそらく平均の統計があるかと思ひますが、大七ヤの必要カロリーですか、中食ですか、一食の必要カロリー、それから

関連

いたしまして、ボリュームですか、大七ヤも、それ

から、小学校の最高、それから中学校の最高、三年で

すか。こゝり計数的なデーターをお示し願いたいと思います。
ます。

・学校教育課長(袁藤一郎君)現在まだ年令別といひますか、
学年別といひますか。そういうデーターをまだ出てありません。
二番(石井輝久君)ただいまうあはけ了解いたしました。

当初教育長さんから大体一食五十円程度というお話がございまして六十円五十円と十八円五十円とこゝを技術的にカロリー、或いはボリューム、そういうことでどう調整をするか。もちろんこゝは技術的に可能だと思ひますけれども、そこで六十円五十円の内容、六十円人は三十円で済んで十八円の人が七十円かかると、その平均が五十円というところかもしれませんが、その初の計数的な御説明をいただきたいと思います。

・教育長(押本禧通君)小学校と中学校では多分給食費が

多少の差があるかと思ひます。できると思ひます。

・二番(石井輝久君)ちよつと意味が汲み取れなかつたんですが、一般家庭でも大体六・七キログラムの幼児と食ひ盛りの十七・八キログラムの量というのはボリュームから違ふと思ひます。

山田議員がカロリーを発言をさしよゝたが、カロリーも必要カロリーの差があると思ひます。そこをいふと一食六・七キログラム、十八キログラムも五十円、この点技術的に可能か、その点お願ひします。

・学校教育課長(遠藤一郎君)こゝはさうデーターになつて申しわけないんですが、小学校と中学校が量的に違ひしますので、大体五月前後の差があると思ひます。

従つて小学校が四十五円であれば、中学校は五十円、四十五円ならば、四十五円位、そういう差ですが、小学校一年生と六年生では給食費の差はない。

小学校段階は一率 中学校段階は一率 そう考え
てあります。

二番(石井輝久君)わかりました。まあ子供のことになりますと、
親も神経をかなりとばうせることがあると思いますが、そこ
う将来遺憾うないようをお願いしたいと思います。
打ち切ります。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時五分 休憩

午前十一時十五分 再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
二八番(望月昭正君)二三お聞きたいんですが、まず第一
に本給食センターのできるのに、主管課はどこか、教育委

員会の中う庶務課か、学校教育の方か。それをまず、
お聞きーたいと思います。

。教育長(押本禧逸君) 学校教育課でございませう。

。二八番(望月照正君) 学校教育課ならば、課長さんは、新しく
いられてあまり、こういうことはおわかりにならなかつたと思ひ
ます。

先ほどからいろいろ皆さん方質問を聞いておりますと、
確たる答弁が一つもない。おそらく、いふぐらいう質問があるこ
とぐらいは、課長さんもお聞きすればわかることと思ひます。
先ほどから、どれ一つ聞きますまでも、なさうなつもりです。

一食四十五月から五十月ぐらいと思う。全部がこゝのような
かっこうになつておりますが、やはり、これだけの大きなセンタ
ーを作るといふ前には、勉強を十二分に、して、館山の給食
センターにつきまゝでは、一食幾らだと、教育委員会の方と

一、まして四十五月を基準にして、さていくつもりです。という
は、きりーた答弁がなければ、我々の方としてもでき上ったあとで
たとえば、六十円なんだ、三十九円なんだ、こういう計算になり
ましたと言われれば、何ともいえない状態です。もう少し
計算してから出ていただきたいと思つてゐるわけです。

それには、今まで、館山市内にある四つの給食をしてゐる学
校の一食当りの単価、それぐらいは調べてあると思います
が、何々学校幾らということをお知らせ願ひたいと思ひます。
。学校教育課長（猿藤一郎君）：那が、四十円です。館山小学
校が四十二円、豊房小学校、四十五円、富崎小学校、四十円、
そうなつております。

。二八番（望月照正君）：今、四校、額を平均しますと、四十
三月ぐらいになるかと思いますが、館山、富浦、三芳を入
れて作りますと、水道とか電気、ガスとか、栄養士の人件

費とか、雑役、人件費、車とか、いろいろものを総令して
館山では幾らをおさえていきたいという数字ぐらいは出て
おると思うんです。それを御報告願いたいと思います。
・学校教育課長（遠藤一郎君）子供から取る額はまかない
費だけに限定されて、その他ものは公費負担である方
針です。純然たる給食費としては、小学校四十五月、中
学校五十九月見当であるつもりです。

・二八番（望月照正君）そうしますと、那古、館山、豊房、富崎、
これは全部まかない原材料だけの額ですか。

・学校教育課長（遠藤一郎君）市内の場合にはまかない原材料
費です。光熱水費、その他は公費負担です。

・二八番（望月照正君）四校は人件費とか、ガス、水、道等は
全部公費ですか。間違いないと思いますか。

・学校教育課長（遠藤一郎君）公費です。

二八番(望月照正君)公費で現在までやつてゐるならば、四校の公費の給食に充てる支出、この内訳をお知らせ願ひたいと思います。

議長(吉田勇治郎君)暫時休憩いたします。

午前十一時三十五分

休憩

午前十一時四十分

再開

議長(吉田勇治郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。
二八番議員に対する答弁を求めます。

学校教育課長(遠藤一郎君)光熱水費、水道とか、これに
関しては、給食だけが、ガスターが使つておりません。で、
学校全部の中の一環としてやつておりますので、ここでは、
電気代、幾ら、水道代、幾ら、ということは出ません。

人件費の方は、館山小学校が生徒数千七十二人で週五日制
五人で百四十万九千円、那古小学校が生徒数四百九十四人
五日制、給食婦四人で八十万、豊房小学校が百九十一人
の生徒数で五日間実施で二人四十万、富崎小学校三百
二人、三日間実施で給食婦三人四十万、そういう計算になり
ます。

二八番(望月照正君)教育長さんにお伺いいたします。

この問題につきまゝでは先ほどから教育課長がメーターが
ついてないので、わからないといいますが、当初予算を考え
ますと各学校には予算の配分うときには児童数と
ことをよく言わねばなりません。給食を行なっている学校
と行なっていない学校は当然光熱水費に関りまゝでは
児童数だけでは数字が出てこないと思うんです。そう
いう点をまず聞きたい。それからもう一つは先ほどか

ら給食の一食分は四十五月から五十月ということですが、たとえばきょうちゅうだいいたりまーた統計にありまーてもわかりますように豊房では百六十八名で一食四十五月、今度は一万二、三千円を対象とする給食センターでーかも各市町村で合理的な給食センターを作るときに数が多くて仕入れの問題等を考えまーても、四十五月から五十月という数字自体が非常におかしいと思う、もっとも合理的な運営方針合理的な仕事場を考えれば、少なうとも四十月を切るといふぐらいの希望的数字でなければ、実際問題といたりまーて、那古小学校のことを考えますれば、仮りに五十月とした場合に今度の給食は今まで学校でゐっているよりも、ごはんがつめたくて、十月高いという、実態になると思います。そういう問題を結論は突きつめていきたいと思ひます。人数が百六十八名で四十五月でできるものを一万幾らで

ーかも合理的建築をーーかも四十五月から五十月、あいまいな数字はおかしい。それとちよつと。

・教育長(押本禧逸君)電気、水道につまゝては生徒数等、を勘案して予算を配分しております。そういうものを加味した昨年度、実績というものを基準にして配分しております。

・学校教育課長(遠藤一郎君)現在やっている四校は、実は脱脂粉乳を使っております。

今回計画しておるセンターでは生乳を飲ませたい。そこに五月の開きがあるわけでそこで四五月ということでももちろんセンター方式でやる趣旨は、少くとも安くということが考えられます。生乳等の購入方法等につまゝてもできるだけ、安くして現在やっている実施校よりも上げないように努力したい。こう考えております。

ニ八番(望月照正君)学校教育課長さん、上らないようにということは最低が四十円ですから四十円を上らないと考えてよろしいか。学校教育課長(遠藤二郎君)生乳が七月ですから四十円うところは四十七円ぐらいになります。

ニ八番(望月照正君)課長の答弁ならば、それならば合理的な工場生産合理的な運営ということを考えれば脱脂粉乳が五月がプラスでも三十八円とか三十七円ということが出てくる。四十七円とか四十六円という数字はつかない。その辺のところをもういっぺん。

学校教育課長(遠藤一郎君)私が申し上げましたのは現在が徴収してある金額から考えたわけでございまして合理化さへいば四十円前後になると思います。が、残らということとははっきり申し上げられません。

ニ八番(望月照正君)わかりました。市長をはじめよく研究さいます。

一て我々といたーまーては義務教育の経費負担軽減を考え
ますれば脱脂粉乳のみの四十円をオーバーしないように努力
願いたい。かように考えております。なお教年前まで富
崎小学校におきまゝで富崎の給食の問題についてパン
と館山市農業協同組合の富崎分所で作つていたというこ
とを聞いておりますが、その点調査したことがございますか。
教育委員会庶務課長(干場伊右衛門君) 富崎の給食につい
ては農業協同組合あそこに委託加工をお願いして農
業協同組合でやっていたことはあります。

二八番(望月照正君) 質問を終わりますが、どうぞ農協の問題
等もよく加味して先ほど小沢議員からのお話のとおり
パンとか牛乳とかというものはなるべくいいものを安くでき
るように御努力願いたいと思います。

二九番(西村真次君) 一つだけ簡単に現在実施している学校

は実施日数が五日とか三日という御説明だったんですが、このセンターができたあと、完全給食というお話ですが、これは幾日になるわけですか。

学校教育課長（遠藤一郎君） 週五日を持って行ないたいと思います。

ニニ番（小沢恵太郎君） いろいろと貴重な御質疑があったようでございますが、議事運営上、運営にあたりましては組合が設立できた以後におきまゝて議会或いは委員会というものが持たれることと思います。

さよう各位から御質問があった点を十分御考慮くださるだけであります。よく立派な給食ができるような研究を総力をあげて市長さんはじめにいただきまして、一応この辺で質疑を打ち切りまして一部事務組合を設立に賛成したいと思えます。

議長(吉田勇治郎君) ただいま議会運営委員会を代表して
議事進行の動議が出まゝたが、本動議に御異議ござい
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。
おかけいたします。

本案を討論省略採決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。

おかけいたします。

本案を原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君) 異議なしと認めます。よって本案は
原案通り可決さしなす。

午前の会議は二時にて休憩といたします。

午後は一時開会といたします。

午前十一時五十二分 休憩

午後一時 再開

議長(吉田勇治郎君) 午後の出席議員数 二十一名

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第二議案第六十二号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第六十二号 損害賠償の額を定めることについて

議長(吉田勇治郎君) 説明を求めます。

人事課長(小沢正治君) 議案第六十二号につきまゝ御説明申

し上げます。

本案は去る六月七日の土木工事現場におきまして発生いた
—ました事故によりなくなりました今津なおの遺族に対
—しまする遺族補償を含む損害賠償額をおきめいただく
というものでございますが、その金額といたしまして四百二十
三万七千三百二十六円で御決定をいただきたい。

この金額につきましても遺族代表と私もいろいろ話し合
いを進めて参ったわけでございますが、当初六百九十九万円
という請求額に対してまゝ最終的に市の議会の議決が
得らるるならば、五百万円でも可決したいということで話し合
いがまとまったわけでございます。遺族に対しまする五百万
円はほかに本人が事故により負傷いたしまして館山病
院に入院した際、医療費が一万四千三百六十六円かかっている
わけでございます。

この遺族に対しまする五百万円と館山病院に支払います

一万四千三百六月と合わせまゝて話し合ひでまゝとまりま
 た総額は五百一万四千三百六月となるわけでございます。
 その中で昨年十二月一日発足いたしまゝた地方公務員公務
 災害補償法という法律に基きますところの遺族補償
 がたんせ法律が施行されてからこのやうな実例がほとん
 ど出ておりません。関係上、まだ中央の法律の運用の指
 針というものが出ておりません。で、た関係で当初災害補
 償法に基きます基金の賠償責任は市の自動車損
 害賠償保険法に基く三百万円が予定される以上、免責で
 あるという主張がなされまゝたけれども、そうしますと自
 賠法で三百万円、保険金が入ったとしても、純粹には一般
 財源を二百万円、市が負担しなければならぬというやう
 な形であつたわけでございますが、これが最近に至りまゝ
 て、運用の統一指針が示されまゝて、私もこの関係

につきまゝてはあくまでも基金は補償を行なうべきだという主張をつらぬいて交渉して参ったわけでございますが、館山市の見解を入れて将来の運用指針にするという回答がございまして、この法律に基きます基金からの補償は、七十七万六千九百八十円という内定でございます。

従いまして五百一十四千三百六円から公務員や災害補償法に基きますところの基金の負担分は七十七万六千九百八十円、これは市の予算を涌さないで遺族に直接交付されるものであります。

五百一十四千三百六円から基金負担関係の七十七万六千九百八十円を差し引きました四百二十三万七千三百二十六円を市の予算を涌して遺族に交付し、支払いを済ませたい。こういう方針でございます。

市長の提案説明にもございますようになるべく早く遺族

の補償を実施いたしまして、なくなつた方々冥福をお祈りしたいというものでございます。よろしく願ひいたします。

議長（吉田勇治郎君）本案に対する質疑を求めます。

ニッ番（中村省吾君）四百二十三万円にがしり賠償額が提案に
なつてゐるわけでございしますが、御説明の中で六百九十九
万円という遺族から補償要求があつた。

これはおそらく私どもが考えても、普通の状態では最低
額の要求だろうと思つてゐるわけなんです。三つ、六、九
十九万円に対して四百何万というものに値切るというか、そこ
に持つてきた経緯、一体どういう経緯でこういう金額に
したか、市が六百九十九万円という要求に対する考え方
としては、どういふ考え方で、これを折衝に当たつたか、そ
うな点を御説明願ひたいと思ひます。

人事課長（小沢正治君）当初六百九十九万円の数字は、正式な請求
という形ではございませんで、たけいども、私ども市長の指示を
受けまゝて遺族代表と早急に金額を話し合ひで決定す
るやうにということ、遺族代表を選んでいただきまゝて
話し合ひをする中で遺族側の考えであらうか、一応請求
額というものを提出していただいせんか、ということ、遺族
側といったまゝでもその適正額というものが、どうやうに考
えらうか、非常に迷つたやうでございします。

そこで東京^都交通センターの弁護士さんに御相談いたしまして
さうして何を参考にしても多いということになるか、少ないとい
うことになるか、自分たちでも自信もない、はっきりない
けれども一応参考に伺つた中でさう高い額とは考えない
また、その額にあくまで固執するものではないということ
で、メ文的に口答の説明つきでいただいたわけにございします。

六百九十九万という額に對しまして、私ども交渉いたしまして、場合に一番困る問題は遺族の立場ということとそれから市一般財源を使用するいわゆる市民の財産を私どもがそういう形で充當していくという板ばさみの形、そういうことをいろいろ考えまして、適正な額というものがむづかしいわけでございまして、いろいろな実例やら交通相談の弁護士の方たち、そういう方たちにも聞いて見まして、どういう程度が両者の立場から適正な額と目されるかということについて相当検討したわけでございしますが、最終的には遺族が四人でございします。男二人、女二人の兄弟でございまして、その四人に對しまして、自賠法の三百万円は大体保険金はそれを上回る賠償をした場合に完全に入るであろうという前提から、遺族四人に對して一人百万円合計四百万円、そういう

統括的に五十万円をプラスして四百五十万円という線を出した場合、非常に低い額だろうかということでお伺いしたところが、四百万出れば上々ということになります。もうな返事的な御意見を伺ったわけでございます。そこで最低線を四百五十万円程度というふうな考え方で話し合いに入つたわけでございます。

結局私どもの方から考えらることは、自賠法が三百万円と公務員の公務災害補償が七十数万円、これが免責になるとすると、それを市で負担して三百八十万円、そういうような形から端数切り上げて一人百万円、四百万円という考え方もできるという説明もしたわけでございます。

もし、交通事故が伴わずに公務死という場合には、今津村さんの場合、ざくばらんに申しまして、七十数万円の補償でございます。自賠法がからんで三百万くるという考

え方、それからもう一つは公法に基くところ、賠償請求権とあと国家賠償法、民法に基くところ、賠償権とのくらみ合い、そういう関係から、やはり究極的に両者がお互いに納得し合う。示談というところで適正額、結論的に申上げますと、高いか、低いか、非常にむづかしいわけですが、います。そういう関係から示談を相手方も六百九十九万円には固執しないという前提から、最終的には、五百万円を下回らないようにお願いしたいということ、そう段階で市長の指示を受けまして、五百万円の手を打ってよからうということに相なったわけであります。

ニ番（中村省吾君）よくわかりました。そこで今課長おっしゃる、またように四百三十三万七千円という額を決定するに当たって、やはり六百九十九万円という要求に対して、こういうふうに切り下げた形、この主たる原因というところは、今説明を

聞いても市一般予算から支出しなければならぬ。こういう点が非常に大きな比重を占めているように思われます。

こういうふうに取り下げたという原因をよく追及して見ますと、私、こういった災害が起きたときに十分な補償をしてやるということがまずたてまえだろうと思えます。ところが市の執行部としても一般予算の中から限られた予算の中から支出するというところに問題がある。そこでこういった結果になったろうと思います。私は、こういう問題が起きたときに遺族に館山はさすがに市だ、よくこれだけのものを立てくれた。そういう気持ちを与えなければならぬ。そのことが市民教育にもなるかと思えます。そういう点では遺憾ながら請求権を切りつめたということでは釈然としないものが残る。そこで私はもう一点お聞きしたいのはなぜ市が対人保険の任意保険に入っていないかということ。対人保険に入っておったとす

るならば今自賠法の三百万というものを課長がおっしゃるけれども、これは自動的にある。その上になおかつ対人保険に入っておったとしたならば、六百九十九万月というものは何うどうさなく出せる。今仮りに五百万の一般任意保険に入ったとして、トラックで八千六百八十月、八千六百八十月の掛金で五百万が補償される。一千万入っても一万七千三百三十月。そういうふう任意保険に入っておりさえすれば、遺族からの請求を切り下げるといふふうなことをしなくとも、楽々出せる。なぜ、そういう措置を取らなかつたか。また、今後取る考えはないのかという問題が起こり得ると思う。突きつめて参りますと一般会計という限られた予算の中だから、こうせざるを得なかつた。それならば、今後そういった任意保険に入る意思があるか入らなければならぬだろう。こういう問題に進んでいく。

この点に關して御意見を伺いたいと思う。

ちなみにもう一言申し上げますと、今一般會計で百二十何万から支出をするわけですが、ところが館山市の自動車、金車、両入ったとしても、おそらく二十万ぐらいだろうと思う。二十万ぐらいのもので、大体各車両一千万ぐらいの補償ができると思う。だとするならば、一回事故を起して大年間分です。百二十万にしても、そういったような關係ですから、今後はどうしても任意保険に入っておく必要があるのではなからうか。館山市も先般交通保険、一日一月掛金を市民に奨励しておる。ところが指導すべき市が任意保険に入っていない。事故が起きても、要求額を切り下げるとな措置を取らざるを得ない。これでは市民教育はできない。

やはり、そういうことは市がまず身をもつ範をなさなければならぬと思う。こういう点に對して御見解を

お伺いしたいと思います。

・財政課長（長谷川広裕君）保険関係でございしますが、一応私どもの方で各課から出ましたものを取りまとめ、支払いをいたしておるわけでございますが、その関係から私どもとしては御意見通りなるべく早い機会に金車両とも対人対物保険に入りたいというふうに考えております。

なお消防車につきましては当初予算には計上してございせんので、たが、予備費を使用いたしまして四月早々議会等、御意見もありましたので、対人・対物に入ったわけでございまして、以上でございまして。

・二番（中村省吾君）今聞きますと早い機会にそういう措置を取りたいということでございますが、是非とも今後には、そうに措置していただきたいと思います。

以上です。

議長(吉田勇治郎君)他に御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(吉田勇治郎君)異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決確定さふました。

日程第三 議案第六十三号を議題といたします。

(書記朗読)

議案第六十三号 昭和四十三年度館山市一般会計補正予

算(第二号)

財政課長(長谷川広治君)議案第六十三号、市一般会計補正予算(第二号)について御説明を申し上げます。

第二号の補正予算はただいま御決議をいただきま
した交通事故による損害賠償を支出するため、補正
でございまして歳入歳出とも四百二十三万八千円を追加
をいたしまして歳入歳出それぞれ十億七千六百三十六万八
千円にいたしたいというものでございます。

内容につきましては主管課長より歳出から御説明
を申し上げます。

土木課長（飯田治男君）歳出について御説明を申し上げます。
まず、ただいま御決議をいただきまして損害賠償
金でございまして、八款土木費の二項道路橋梁費
一目道路橋梁総務費の中の二二節の補償補てん
及び賠償金をこのように補正したいと思っております。
よろしく御審議のほどをお願いいたします。

財政課長（長谷川玄治君）歳出は四百二十三万八千円、損害賠

償金だけでございます。

歳入におきまして三款自動車取得税交付金におきまして百二十万三千円を計上いたしまして、これは次う諸収入におきまして自動車損害賠償責任保険~~償~~の保険金として内示がありまして額が三百一十五千円でございますので、賠償金額とり差額を一般財源に求めることに相なりましてために現在うところ収入見込みとして予算計上額より若干少そうだというものが、この自動車取得税の交付金でございますので、今回そのを計上したわけでございしますが、御承知のとおり、自動車取得税につきましては、年度当初一万円う存目程度う予算計上をいたしたわけでございしますが、現在う果う見込みとして年間館山市う交付金が大體五百万程度になるうではないかといううな情報でございますので、今回財源の關係

からさつき申し上げました百千二万三千円を予算計上いたしまして財源に充てたいというものでございます。以上が歳入でございます。歳入歳出とも、それぞれ四百二十万八千円の追加額ということになります。

以上で予算の説明を終わります。

議長（吉田勇治郎君）本案に対する質疑を求めます。

御質疑ございませんか。——なしと認めます。

おはかりいたします。

本案を討論省略原案通り可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（吉田勇治郎君）異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決されました。

以上により本臨時会に付議された案件全部を議了

いたりました。

よつて本臨時会を開会いたします。

午後一時三十分

肉会

本日。会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

石井 輝久

嶋田 石蔵

伊賀 多朗

藤田 益治

磯辺 博

白熊 盛太郎

黒川 正

三幣 勇

西村 真次

菊井 敏博

小柴 孝

山田教宇

遠山ヨネ子

石井 正

五十嵐 昇

江田徳太郎

島野茂樹郎

中村省吾

小澤恵太郎

飯田義男

田中祿郎

田村源治郎

秋山大三郎

安次徳順

望月照正

鈴木市蔵

山口 康

欠席議員

安西益男

関 武夫

録

昭和四十三年八月三十日

右会議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長

吉田 常吉

同

署名議員

中

村

青

島

同

菊

井

銀

侍

